

首都圏増田会だより

41

2026.7

第41回首都圏増田会総会
オーラム 2026年11月15日(日)

増田とともに歩む喜び、 皆様との再会を願って

横手市まちづくり推進部次長
兼 増田地域局 局長 高橋 道明(小栗山)



「望郷の想い厚く 増田会 ≪その未来の ふるさとやっぱり 首都圏増田会≫」
この言葉は、首都圏増田会の発足時から変わらない、会の主題であると同っています。私は生まれてからずっとこの増田で暮らし、地域の移り変わりを見つめてまいりました。この主題に込められた、離れて暮らしていらっしゃる皆様の増田への熱い想いと、私自身が抱く増田への想いが深く重なり合うことを感じております。

私は、今年の4月より増田地域局長を拝命いたしました。首都圏増田会会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

思い返すこと26年ほど前、私は増田会の担当として皆様方へ大変お世話になりました。故人となられました阿部元会長、佐藤元会長には深い洞察と温かい心遣いを賜り、細野前会長からも多大なるご指導をいただきました。そして、岩田会長とは、会長が役員になられた当初から長きにわたり、今日まで温かいご支援をいただいておりますこと、心より感謝申し上げます。

再びこうしてご縁を頂けたこと、そして「首都圏増田会だより」に寄稿させていただく機会を賜りましたこと、大変光栄に存じます。

さて、現在の増田地域を取り巻く環境は、昔とはまた異なる様相を呈しております。昨年から続く熊の市街地への出没傾向や、地球温暖化の影響で春先から暑い日が続くなど、自然環境の変化を肌で感じております。こうした変化に適切に対応しつつ、市民の皆様の安全安心な暮らしを守りながら、増田がもつ豊かな自然、歴史、文化、そして何よりも温かい人々の魅力をこれまで以上に発信し、地域の活性化に全力を尽くしてまいりたいと思っております。特に情緒豊かな「増田のまちなみ」や、全国に誇れる「りんご」といった地域の宝を磨き上げ、より多くの方々にその魅力を体感していただけるよう、観光振興や地域ブランド力の向上にも力を入れてまいります。横手市全体の発展に寄与しつつ、増田ならではの個性をさらに磨き上げ、多くの人々にとって魅力的な地域であり続けるよう、地域住民の皆様はもとより、首都圏でご活躍の皆様とも連携を深めていきたいと考えております。首都圏でご活躍の皆様が、遠く離れた場所から常に増田を気にかけてくださり、温かいご支援を送ってくださることは、我々にとって計り知れない励みとなっております。皆様の故郷への温かい思いが、増田を未来へとつなぐ大きな力となっていることを改めて実感いたします。

来る第41回総会で皆様と再会できることを、心より楽しみにしております。直接お目にかかり、これまでの感謝と、これからの増田の展望についてお話しできることを願っております。

おわりに、首都圏増田会の益々のご発展と、会員の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

中学時代の思い出

首都圏増田会 会長 岩田 幸子(本町)



昨年は第40回増田会総会が、皆様のおかげで楽しくにぎやかに無事開催することができ、本当にありがとうございました。心より御礼申し上げます。

そしてホッとしたのも束の間、増田中学校の陸上の先輩・山本さんより、11月27日に高宏先生(中学陸上部監督だった高橋宏先生)が95歳で亡くなったとの知らせを受けました。2年くらい前から施設に入ったと聞いて一度お見舞いに伺いましたが会うことができず・・・とても残念で寂しい限りです。

今から60年も前の話になりますが、高宏先生を偲んで私の中学陸上部の時代を少し話させていただきます。私は小さい頃より足が速かったみたいで、小一の運動会の時には、私が1着で走ってきたのに賞品が全員“同じ”という事で泣いて母に文句を言ったみたいです。そんな私ですが不器用極まりなく、障害物競争ではいつもビリでした。(笑、笑)

中学に入っすぐ(半強制的に)陸上部に入れられ、夏の暑い日も冬の寒い雪の中でも厳しい練習の毎日でした。夏休みなどは現役バリバリの陸上部の大学生・羽角光一先生が私たちの指導に来て、高宏先生と羽角先生の最強タッグのおかげもあってか、私が中学三年の時には“放送陸上”の400mリレーで全国第1位、そして前年にはひとつ先輩の山本陽子(旧姓:山下)さんが走り幅跳びで全国第1位、翌年にはひとつ後輩の伊藤ヒロ子(旧姓:柿岡)さんが、三種競技で全国第1位と3年連続全国第1位という輝かしい成績を残すことができました。3年連続で全国第1位になった中学校は増田中学校だけで、いまだに記録は破られていないそうです。高宏先生はそのことが何よりの自慢話で、よほどうれしかったのか晩年になるまで話されていました。今では懐かしい思い出話になりました。

高校も城南に入って毎年インターハイに出場して3年間頑張ってきました。高校も卒業してもうすでに50年以上たってしまいましたが、厳しくも温かい(?)先生方のおかげで“忍耐と根性”だけは人一倍身についたみたいです。たまに古傷が傷んで厄介でもありますが!

最後になりますが、高宏先生への哀悼の意と感謝の思いと共に、羽角光一先生が、昨年名誉ある「旭日双光章(スポーツ振興功労)」を受章したと伺いました。誠におめでとうございます。

今年も第41回増田会総会を11月15日(日)に開催します。是非またお友達と一緒に“いものこ汁”を食べに来てください。私達役員一同、心よりお待ちしております。ありがとうございました。

第40回 首都圏増田会

第40回開催を祝う「鏡開き」で始まった交流会は、郷土の味の振舞い(いもの子汁・ぼだっこのおにぎり・みずこぶの浅漬け・小豆でっちなど)や、増田町観光協会のご協力による郷土菓子や漬物などの販売が行われ、どちらも参加者の皆様から大変好評でした。

恒例となったビッグバンドYokote Heroes(ヨコテヒーローズ)の皆様による演奏をはじめ、横手市在住のジャズシンガーHIROKOさんの歌唱、会場一体となつての「増田盆おどり」に続き、会の最後には参加者全員で「ふるさと」を合唱。会場に楽し気な歌声が響きました。

第41回総会・交流会でも多くの会員の皆様と会場でお会いできることを楽しみにしております。

総会・交流会 令和7年11月16日(日) オーラム

令和7年11月16日(日)「第40回首都圏増田会総会・交流会」が上野オーラムを会場に開催されました。会員、ご来賓合わせて約90名の方々にご出席いただいたほか、地元から「増田盆おどり保存会」の皆さんが第40回記念開催のお祝いに駆け付けてくださいました。

総会にて事業報告や事業計画及び決算・予算が満場一致で可決されたあと、増田盆おどり保存会の皆さんに「増田盆おどり」を披露していただきました。郷愁を誘う懐かしい音色にあわせた優美な舞いに、ふるさと「増田」への想いに包まれたひとときになりました。



～会員の皆様より～ 第40回総会に出席された方からのお便りを紹介します

山田 聰さん（昭和通出身）

首都圏増田会で提供される芋の子汁は、何とも郷愁を誘う美味しさだ。そんな郷里の味を日常に取り入れたくて、時々、秋田のアンテナショップに出かける。

有楽町と品川に常設されている。最近では三関のセリ、春先には山菜、夏場は漬物用の小茄子、正月には男鹿のハタハタ、時々増田のリンゴジュース。有楽町、銀座一丁目界隈には多くのアンテナショップがあって、秋田のアンテナショップからの徒歩圏内には片手に余る数のショップがある。北海道、高知、広島、福井、山形等々。それぞれに個性と意欲が窺えて面白い。

秋田のショップは漬物、日本酒、饅頭など瓶物、乾物が多い。広島のショップには海産物、柑橘系が目につく。隣県山形のアンテナショップでは、前にはお米の量り売り、今は地酒の量り売りに加えて、季節の野菜と果物が店頭を賑わしている。

私にとって芋の子汁と同様に、郷里の味で忘れ難いのは真夏の小茄子漬。塩漬と辛子茄子は何とも言えない真夏の風物。夏休みの昼飯を茄子漬でササッと済まして、八木川に泳ぎに急いだのは、もう数十年も前の風景。

そんな茄子漬を作りたくて、夏場には小茄子を求めてアンテナショップに出かける。運よく秋田のアンテナショップで見つかることもあるが、その確率は高くない。一方、山形のアンテナショップでは、その季節にはほぼ毎週、鶴岡産を店頭で入手できる。塩漬でカリっとした歯応えのあの茄子漬は増田地元産の茄子が最適とは思うものの、鶴岡産の小茄子で十分に美味しく漬けられている。

ただ思うのは、鶴岡市の小茄子は頻繁に都心で手に入るのに、秋田県南産の小茄子は何故なかなかお目にかかれないのかなあ？秋田のアンテナショップで見つければ、ほぼ確実に衝動買いして漬け込んで楽しむ。私の与り知らぬ諸問題もあるのだろうが来季には是非、秋田増田の小茄子で塩漬を作りたい！



武田 勝子さん（亀田平鹿出身）「登山」

私は50歳を過ぎてから登山を始め、北アルプス、南アルプス、中央アルプス、北海道の山々―かれこれ百名山の62座くらいを踏破しました。

一番心に残っている山とは…2001年に初めて白馬岳に夜行2泊3日で「日本三大・大雪渓」を登った時のこと。最初に白馬山荘に泊まり、次の日朝日岳に登って朝日小屋を目指して歩いていたら、一番前を歩いていたリーダーが転んでしまいました。私たちが小屋に助けをお願いにいくと、アルバイトの学生さん（細い方）がリーダーをおんぶしてくれました。女性のリーダーでしたが、多分73キロくらいあったと思います。小屋までは階段で本当に気の毒でした。三段くらい登ると「休んでいいですか？」小屋に着いたのは何時だったのか。

今日はヘリコプターが飛ばないから明日の朝になるとのこと。5人で行ったけどヘリには患者さんと付添いの1人だけと言われて次の朝早く3人は山を下り私は残りました。なんと、ヘリが来て「患者だけ」と言われたときの私のショック。でも、バイトの学生さんが「コーヒーを飲んで少し落ち着いてから下りてください」私は生まれて初めての行動でした。なんと心細い2時間の道のり。人っこ一人会いませんでした。

途中の北又小屋に着いたら、なんと先に下山した仲間3人がお昼を食べていてびっくり仰天。「武田さん、幽霊じゃないよね？足がある」と言って大笑い。そこで私もカップラーメンを食べて仲間と一緒にタクシーで温泉に行って3日分の汗を流しました。私はそこで仲間と別れてリーダーが入院している富山の病院へと急ぎました。リーダーは何回も「ごめんなさい」と謝ってくれましたが、私も変な話いい経験をしましたから。東京から娘さんが来てくれて、富山駅近くにビジネスホテルを取っていますのでとってくれて、私は病院を後にして次の日富山空港から飛行機で東京に帰ってきました。なんとなんとリーダーは大腿骨に金具が入っているのに、次の年にまた御礼山行と言って同じコースを踏破しました。もちろん私もお供しました。



増田町の出来事

令和7年度に行われた
行事や出来事を紹介します

蔵と書

～蔵まち巡り×書道展～開催

5月31日～6月8日の期間、中七日町通りを会場に「蔵と書～蔵まち巡り×書道展～」が行われました。

増田にゆかりのある書道家、矢野童観（増田町出身・書道家武田双雲に師事）、堀田玲子（増田町在住・日ノ丸醸造のラベルを揮毫）両氏の作品が蔵の座敷や通りの随所に飾られ、蔵と書が融合した特別な空間となりました。



横手市市制施行20周年を祝う

平成17年の市町村合併から20周年を迎え、9月6・7日には全市を挙げて20周年を祝う「全力！よこて祭り」が横手駅前を会場に開催されました。

各地域の伝統行事などが競演する中、「増田のぼんでん」も増田小学校ぼんでん部の子どもたちと各町内の若衆が、力強い妙技とぼんでん唄で会場を沸かせ、20周年のお祝いに花を添えました。



横手市増田まんが美術館開館30周年を迎える

原画収蔵枚数日本一を誇る「横手市増田まんが美術館」は、平成7年10月の開館から30周年を迎えました。

10月4日に市制施行20周年とあわせて開催された記念式典では、マンガ家の里中満智子氏による記念講演のほか、当まんが美術館に全原画を収蔵している12人のマンガ家およびその親族の方々に横手市から感謝状が贈呈されました。



相次ぐクマの出没…市街地での目撃も

全国的にクマの出没が相次ぎましたが、増田でも6月下旬から目撃情報が多数寄せられ、市では関係機関と協力しパトロールの実施やクマを誘引する柿などの樹木の伐採などの対策を行いました。幸い増田地域においては人的被害はありませんでしたが、今年も引き続き注意が必要です。

会員の皆様へお願い

事務局より

予算ならびに事務処理の都合上、増田会だよりの発行について、次のようにさせていただきます。

皆様のご理解の程をお願い申し上げます。

過去5年間、会費が未納の方

総会の案内及び増田会だよりの郵送を中止させていただきました。ただし、総会への参加は1人でも多くの方々の参加を期待しています。

令和7年度 首都圏増田会収支報告

令和7年10月1日現在

首都圏増田会の令和7年度の収支決算がまとまりました。その内容は下記のとおりです。

【収入の部】		※「比較」欄は予算との比較	
項目	金額(円)	比較	備考
会費	191,738	▲ 58,262	2,000円/年(手数料差引後)
総会会費	496,000	16,000	8,000円×62人
補助金	590,000	10,000	横手市より
繰越金	1,293,746	0	
預金利子	1,073	1,013	
諸収入	382,000	82,000	総会祝儀(340,000円) 公告収入ほか
収入合計	2,954,557	50,751	

【支出の部】			
項目	金額(円)	比較	備考
総会費	1,153,829	▲ 153,829	会場料、宴会費用ほか
会議費	89,307	110,693	役員会(3回)
在京ふさと会費	97,844	82,156	在京ふさと会出席 連絡協議会出席
慶弔費	62,000	▲ 42,000	りんご祭り 増田花火 100回記念会議
広告費	46,000	4,000	増田の花火協賛金ほか
通信費	111,760	8,240	増田会だより印刷代ほか
事業部活動費	30,000	0	市政20周年行事参加
手数料	2,585	4,415	送金手数料
事務費	0	15,000	
総会準備費	25,407	244,593	総会案内はがき代
予備費	300,000	711,806	
支出合計	1,918,732	985,074	

収支差引残金 1,035,825円は翌年度へ繰越

令和7年10月1日 首都圏増田会 会長 岩田 幸子

第41回首都圏増田会総会

■期日 11月15日(日)午前11時30分～

■場所 オーラム(令和7年と同じ場所です)

住所 東京都台東区東上野 1-26-2

電話 03-5812-1123

総会会費 8,000円

募集しています

写真募集 首都圏増田会広報部より

「増田会だより」の表紙に載せる写真を募集しています。増田会にふさわしく、増田に関する郷土の風景、行事、心に残る写真をお持ちの方がおりましたら、ぜひ提供をお願いします。

■提供先:幹事長 越後 英雄

広告協賛募集 首都圏増田会総務部より

総会資料に掲載する広告を募集しています。1口(名刺版)3,000円となります。希望される方は、伝票の通信欄にその旨をご記入いただき、会費と一緒に納入してください。

会費の納入はお早めに!

事務局より

当会の事業・運営は、会員の皆様の会費によって賄われていますが、ここ数年会費の納入が遅れたり、未納の会員の方がおります。健全会計維持のためにも、納入はお早めをお願いします。なお、5年間未納の方には次回より案内状・たより等の送付はしないこととします。また、転居された方をご存じの方は、横手市まちづくり推進部増田地域課へお知らせください。

■連絡先:〒019-0792 秋田県横手市増田町
増田字土肥館173番地
電話0182-45-5510(地域協働係)

◆会費 年額2,000円

※現金をご持参でお振込みの場合、振込料金(110円)がかかります。

◆納入期限 令和8年9月30日(水)

※払込伝票の通信欄は、会員紹介、増田会に対するご意見などを自由に記入してください。



【今号の表紙】

真人公園の夜桜の写真を
ご提供いただきました。

撮影:高橋 淳一(小栗山)